

平成 21 年 5 月 20 日現在

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18320124

研究課題名（和文） 中世ヨーロッパにおける権力構造とアイデンティティー複合

研究課題名（英文） Power-structure and identities in Medieval Europe

研究代表者

渡辺 節夫（WATANABE SETSUO）

青山学院大学・文学部・教授

研究者番号：70036060

研究成果の概要：

本研究では前近代、とりわけ中世ヨーロッパにおける支配権力の編成の実態とメカニズムを各地域におけるアイデンティティー(一体性)の形成との関係で捉えることを課題とした。全体的な権力の構造(国家)のレベルでこの問題を考える場合には、社会を構成する各レベル、階層毎に検討しなければならない。本プロジェクトでは権力の最上層部分(王権、諸侯権)に限定し、集団的な「統合と調整」に論点を絞り、各地域間の差異とヨーロッパ中世的な特徴を把握することができた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006年度	7,300,000	0	7,300,000
2007年度	4,400,000	1,320,000	5,720,000
2008年度	1,300,000	390,000	1,690,000
年度			
年度			
総計	13,000,000	1,710,000	14,710,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・西洋史

キーワード： 西洋中世史、 権力構造、 アイデンティティー

1. 研究開始当初の背景

本研究は何よりも、1970年代以降、欧米において活発化している「中央集権化された近代国民国家」の起源と形成過程を前近代、とりわけ中世にまで遡って考察するという斬新な視点に動機付けられたものである。

換言すれば近代国家の形成の問題を単に権力の編成や制度の面から見るのではなく、その背後にある利害の調整と統合のメカニズムを解明することである。この課題と、近年活況を呈しているアイデンティティーの

問題とを結びつけることによって、歴史学と法学や社会学の方法論的交流を促進し、新しい歴史研究の視角と成果を生み出すことになると考えた次第である。

2. 研究の目的

本研究の基本的な目的は、ヨーロッパの前近代、特に中世における支配権力の編成、王を頂点とする権力構造を、社会における利害

調整の場において働く諸力の多様性と、それを通して諸社会集団が全体の中に統合され、中世国家(王国)の一体性が形成されていく過程を史料に則してダイナミックに捉える点にある。

そこでは国家的な、王権レベルでの統治、あるいは政治的支配や制度の実態のみでなく、その前提をなす、法的、経済的側面での利害関係の「調整と強制」、宗教・文化・思想のレベルでのイデオロギー的な「教導と交流」のメカニズムが問題となる。

以上の視角から研究を遂行することにより、支配権力の編成の実態とメカニズムについて、ビザンツ、東欧を含むヨーロッパ各地域間での差異と類似性を明らかにすることにより、ヨーロッパ中世的な特質を明らかにするとともに、近代への移行の必然性を解明することを目的とするものである。

3. 研究の方法

上記の目的を完遂するためには、時代・地域・分野の面で多人数の研究者を配置しなければならない。しかし、10年以上にわたり、王権・貴族・教会の三者の相互関係を軸に共同を遂行していた「ヨーロッパ中世史研究会」を母体とすることにより、効果的に研究を遂行することができた。

具体的には分担者各自のこれまでの研究実績を踏まえ、先ず、それぞれが本プロジェクトの共通課題に見合った個別テーマを提示し、それを三つに大別し、研究を推進することとした。それらは、紛争解決のメカニズムと裁判権、その背景としての一体性、議会における立法と合意形成のメカニズム、王権の地域統治と統合のメカニズムである。

4. 研究成果

この三年間、各分担者は上記の本共同研究の目的、目標、視点を強く意識しつつ、精力的に研究に邁進し、下記のように多くの成果を得ることができた。

他方で、「ヨーロッパ中世史研究会」を本共同研究の場として、上記の課題設定に基づき研究活動を首尾よく推進することができた。

具体的には隔月の割合で、上記の三つのテーマで研究集会を開催した。そこでは分担者以外からも全国的に報告者を募り、また若手研究者を含め、多くの研究者の出席を得て、活発な質疑・応答により、問題を深め、多様な新たな視点を産み出すことができた。

また、外国からも上記のテーマを研究する

第一線の研究者を招き、対象課題に対する認識を一層深めることができた。

更に、上記の課題については、「中世王権と聖俗貴族層 - 紛争の解決とアイデンティティー」と題するシンポジウム(「西洋史研究会大会、2007年11月」)の課題については「西欧中世 - 近世における政策決定をめぐる合意形成」と題するシンポジウム(法制史学会総会、2009年4月)を開催することができた。いずれも多くの専門研究者の出席を得て盛会であり、活発な質疑・応答により、問題の所在と解決の方向性をより鮮明にする意味で極めて有意義であった。

2009年3月には3カ年の共同研究の成果を総括する意味で、冊子形態の「研究成果報告書」(全124頁)を作成した。同時に合宿を開き、2010年度の科研による出版助成への申請を目指して、『論集』の準備会を開催した。その為の原稿は2009年11月をメドに集約することとなった。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計13件)

(1)北野かほる

「聖俗筆頭貴族間の紛争と王」
『西洋史研究』37号、(査読有)2008年、pp.184-198

(2)北野かほる

中世後期イングランドにおける仲裁の位置」
『法が生まれるとき』(創文社)(査読有)
2008年、pp.95-127

(3)薩摩秀登

「チェコにおける紛争と王国統治」
『西洋史研究』37号、(査読有)2008年
pp.221-230

(4)西川洋一

「法が生まれるとき - 初期中世ヨーロッパ」
『法が生まれるとき』(創文社)(査読有)
2008年、pp.61-94

(5)河原 温

「多数性としての小都市をめぐる一考察」
『人文学報(首都大学東京)』400号、(査読無)
2008年、pp.1-23

(6)大月康弘

「Monastic property and the Imperial taxation system」
『Mediterranean World』No.XIX、(査読無)
2008年、pp.1-23

(7)渡辺節夫

「カペー朝期フランスにおける地方統治とプレヴォ・バイイ制」『青山史学』25号
(査読無)、2007年、42-69頁

(8)西川洋一

“Genius des Okzidents” Zeitschrift fuer Staats-undEuropawissenschaften, vol. 5-3・4(査読有), 2007, pp.335-357

(9)大月康弘

「寄進と再分配の摂理」
『歴史学研究』833号(査読有)
2007年、2-12頁

(10)堀越宏一

「緊急発掘が支配するフランス考古学制度と中世史研究の行方」
『東洋大学文学部紀要』(史学)32号(査読無)
2007年、171-185頁

(11)渡辺節夫

「フランス中世における王国同輩制の実態と基本的性格に関する一考察」『紀要(青学・文)』47号(査読無)、2006年、185-205頁

(12)堀越宏一

Moyeuivre, le plus grande forge d'Europe au XVle s., Actes du congrès C.T.H.S., (査読有) 2006, pp. 343-352

(13)大月康弘

Towards the origin of « Europe », Mediterranean World, XVIII, (査読無)
2006, pp. 183-196

〔学会発表〕(計6件)

(1)甚野尚志

「コンスタンツ公会議における公会議主義と教皇の至高権」
『法制史学会』総会
2009年4月18日、九州大学

(2)堀越宏一

「中近世フランスの三部会における課税合意の形成」
『法制史学会』総会
2009年4月18日、九州大学

(3)河原 温

「15世紀ブリュッヘの都市儀礼とブルゴーニュ公」
『ブルゴーニュ公史研究会』
2008年11月2日、東北大学

(4)北野かほる

「聖俗筆頭貴族間の紛争と王」
『西洋史研究会』大会、青山学院大学
2007年11月25日、

(5)薩摩秀登

「15世紀末 - 16世紀初頭のチェコにおける紛争と王国統治」
『西洋史研究会』大会、青山学院大学
2007年11月25日

(6)河原 温

「15世紀ブルッヘのマリア兄弟団をめぐる問題」
『ブルゴーニュ公史研究会』大会、明治大学
2006年10月29日

〔図書〕(計15件)

(1)河原 温

『都市の創造力』(ヨーロッパ中世2)
岩波書店、2009年、276頁

(2)甚野尚志

『一二世紀ルネサンスの精神』
知泉書館、2009年、564頁

(3)薩摩秀登

『辺境のダイナミズム』(共著)
岩波書店、2009年、115-213頁

(4)渡辺節夫

『王の表象』(編著)
山川出版社、2008年、3-11、147-190頁

(5)堀越宏一

『中世ヨーロッパ生活誌』
NHK出版、2008年、190頁

(6)西川洋一

『法の再構築』(共編著)
東大出版会、2007年、pp.3-29

(7)甚野尚志

『中世ヨーロッパの社会観』
講談社、2007年、286頁

(8)堀越宏一

L'industrie du fer en Lorraine
E. D. Guéniot, 2007, 515p.

(9)北野かほる

『法の生成と民法の体系』(共著)
創文社、2007年、341-385頁

(10)河原 温

『大学で学ぶ西洋史<古代・中世>』(共著)
ミネルヴァ書房、2006年、286-296頁

(11)渡辺節夫

『フランスの中世社会』
吉川弘文館、2006年、229頁

(12)北野かほる

『西洋法制史学の現在』(共著)
創文社、2006年、455-601頁

(13)河原 温

『ブルジュ』
中央公論新社、2006年、244頁

(14)渡辺節夫

『幻影のローマ』(共著)
青木書店、2006年、303-339頁

(15)甚野尚志

『幻影のローマ』(共著)
青木書店、2006年、221-261頁

6. 研究組織

(1)研究代表者

渡辺 節夫(WATANABE SETSUO)
青山学院大学・文学部・教授
研究者番号：70036060

(2)研究分担者

北野 かほる(KITANO KAORU)
駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：90153105

西川 洋一(NISHIKAWA YOUICHI)

東京大学・法学研究科・教授

研究者番号：00114596

河原 温(KAWAHARA ATSUSHI)

首都大学東京・都市教養学部・教授

研究者番号：70186120

甚野尚志(JINNO TAKASHI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90162825

土浪 博(TONAMI HIROSHI)

関東学院大学・法学部・准教授

研究者番号：20277924

堀越宏一(HORIKOSHI KOICHI)

東洋大学・文学部・教授

研究者番号：20255194

薩摩秀登(SATSUMA HIDETO)

明治大学・経営学部・教授

研究者番号：70211274

大月康弘(OTSUKI YASUHIRO)

一橋大学・経済学研究科・教授

研究者番号：70223873

(3)連携研究者

なし